

4. ワシントン大学タテウチ東アジア図書館所蔵外邦図のカタログリングプロジェクト

Cataloging project on gaihōzu at the Tateuchi East Asia Library, University of Washington

ワシントン大学タテウチ東アジア図書館
日本語図書カタログガー/シリアルおよび電子リソース担当司書
ヒル恵子

Keiko Hill
Japanese cataloger/TEAL Serials & E-Resources Librarian
University of Washington Tateuchi East Asia Library

はじめに

ワシントン大学タテウチ東アジア図書館の外邦図コレクションはおおよそ約 7000 点におよぶ。この外邦図コレクションがどのような経緯でワシントン大学にまで到達したかについては、当図書館日本研究担当司書の田中あずさ氏のレポートに含まれるので、ここでは割愛させていただきますが、アメリカ合衆国においてはアメリカ議会図書館、クラーク大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレイ校、ミシガン大学に並ぶ規模のコレクションと思われる。アメリカ合衆国国内には、わかっているだけで上記以外に 30 の大学図書館もしくは公共図書館において外邦図が所蔵されている¹。しかしながら例えば大学図書館内の地図図書館に一図幅（例えば「臺北」図幅一作成大日本帝國陸地測量部；昭和 12 年：オハイオ州立大学所蔵）として所蔵されている図幅が外邦図として認識されていない可能性もあるので、アメリカ合衆国国内における外邦図の全体像（所蔵機関、規模など）は厳密にいうと不明である。

現状

2020 年 3 月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためにワシントン大学図書館では全職員が自宅からのリモート勤務になり、図書館資料の閲覧が制限された。2021 年 1 月現在においてもその状況は大きく変化しておらず、このような状況下で、外邦図ももちろん実物を確認することはできない。しかし、幸いなことに完成間近の外邦図インベントリーシートが既にあったため、それを田中氏より Google Drive にて共有してもらい、それを基にしてカタログリングを始めることにした。最初に行った作業は、2020 年 8 月から 9 月まで大学院生のアルバイトに個々の図幅の書誌情報が WorldCat²内にすでに存在するかどうか OCLC Connexion³を使い探してもらい、存在した場合その書誌情報がそのまま当館の図書館目録に使えるかどうかを確認することである。作業を担当した学生は、幸いにも日本語が堪能だけでなく、漢字の知識も豊富で、読み方の不明な地域名の現地の読み方を推測することができ大いに助けられた。

ここで WorldCat と OCLC Connexion について簡単に説明をしておきたい。WorldCat は、アメ

リカ合衆国オハイオ州に本拠を置く非営利団体の OCLC (Online Computer Library Center)が運営する国際的なオンライン図書総合目録で、参加館の所有する書誌データをデータベース化しアクセスを可能にしている。参加館では書誌作成担当者が OCLC の Connexion というソフトウェアを使って書誌レコードを作成し WorldCat にアップロードしたり、また、個々機関のオンライン目録システムに書誌レコードをダウンロードをすることができる。したがって、OCLC Connexion 内で該当する書誌レコードがあれば、それを利用し、なければ作成してデータを提供する。

取り組んだこと

プロジェクトの第一歩は OCLC Connexion 内での書誌レコードの検索である。検索方法は、検索画面において、例えば「ti(title):満州十万分一圖 奉天 mt(material):map la (language): jpn」という複数の検索ワードを使い、なるべく検索結果を絞るようにし、得た書誌レコードの ID number(OCLC #)をインベントリーシートに記入していった。外邦図の書誌項目には、タイトル(地域名)、出版年の他に、大きさ、縮尺、色数、緯度経度、測量機関、測量方法、測量年、出版機関、AMS (Army Map Service)ナンバー、軍事機密レベルなどがあるが、検索するのに重要なのはまず主タイトル、出版年である。しかし検索結果が複数になることも多く、そこからカタログ言語が英語のもの(カタログ言語には日本語など英語以外のものもあるが、アメリカ合衆国では英語のものを使用する)「出版年」がワシントン大学所蔵のものと一致したものを抽出した。なかには、「出版年」が一致しないも

のもあったが、その場合はその旨を付しておくことで、後に新たな書誌レコードを作成する際の参考にするために記録をした。また、理由については後述するが、さらにその中からスタンフォード大学が作成した書誌レコード、もしくは作成はしていないがその書誌レコードの図幅を同機関が所有しているものを優先して選んだ。書誌レコードの中で 505 フィールドは、「Contents Note (レコード内のコンテンツのリストを記入できる)」情報を入力するところであるが、主タイトルを「地域名 2 (セットもしくはシリーズ名)」で作成した書誌レコードには、この 505 フィールドにその地域内の地名が掲載されている。例えば、アメリカ議会図書館が作成した「主タイトル: 満州十万分一圖 奉天」の書誌レコード(OCLC#1041193717)の 505 フィールドは「-- 15. 撫順。」となっていて、これは「奉天」という地域内にある「撫順」という地名の図幅があることを示している。この「満州十万分一圖 奉天」シリーズは、アメリカ議会図書館以外には所蔵している機関がなく、アメリカ議会図書館が書誌レコード(OCLC#1041193717)に、「奉天」内の「撫順」の図幅のみを所蔵情報として入力したということである。ワシントン大学のインベントリーシートを見てみると、当館では「奉天」には「撫順」以外に 18 の地名の図幅を所有している。そこで、私たちはこの書誌レコードの 505 フィールドに、ワシントン大学所蔵の図幅の地名を追加し OCLC Connexion 内に保存していった(図 1)。そうすることで、他機関がカタログする際の汎用性を高めることを試みる。

500			"奉天省"--In upper margin.
500			"満州國治安部・大同元年."
500			LC copy stamped "軍事秘密." #5 DLC
500			Relief shown by contours and spot heights.
500			Includes index map to adjoining sheets.
500			LC copy incomplete set of 4 maps: no. 15 has copy 2, 3 and 4. #5 DLC
500			LC copy stamped on verso: "Army Map Service Library ..." and "Captured map." #5 DLC
500			Gaihōzu. #5 DLC
505	1		1. 赫爾蘇 -- 2. 柵鹿 -- 4. 八家子 -- 6. 八面城 -- 7. 威遠堡門 -- 8. 開原 -- 9. 大甸子 -- 10. 營盤 -- 11. 大窪 -- 12. 昌圖 -- 13. 通江口 -- 14. 鐵嶺 -- 15. 撫順 -- 17. 康平 -- 18. 法庫門 -- 19. 石佛寺 -- 20. 奉天 -- 22. 賓圖王府 -- 23. 秀水河子.
651	4		遼寧省 (China) †v Maps.
651	0		Liaoning Sheng (China) †v Maps.

図1 (OCLC#1041193717 に当館所蔵の「15. 撫順」以外の図幅を505 フィールドに追記して保存した書誌レコード)

同時に、将来的に他機関所蔵の外邦図コレクションとコラボレーションをすることを念頭に、まずスタンフォード大学のコレクションと比較しワシントン大学が所有しているが同大学が所有していない図幅をチェックしていった。その際にスタンフォード大学のインデックスマップ⁴ (例: 満州十万分一図) を利用したが、まずスタンフォードで独自に付与されているナンバリングシステム (E-6-02 など) を理解するのに時間を要した。また同大学が所有していない図幅 (赤枠部分) (図2)

を確認しなくてはならなかったが、同大学のインデックスマップには当然その地名が記載されていないので、その地名を探し出すのに国立国会図書館のインデックスマップ⁵ が大変参考になった。また、東北大学のデジタルアーカイブ⁶ を使って地域名2 (エリアもしくはシリーズ名; 同アーカイブでは「記号」) と図幅名の関係を確認できたことで、実物の図幅を見ることができない環境で、外邦図が網羅する地域を俯瞰的に理解することができた。

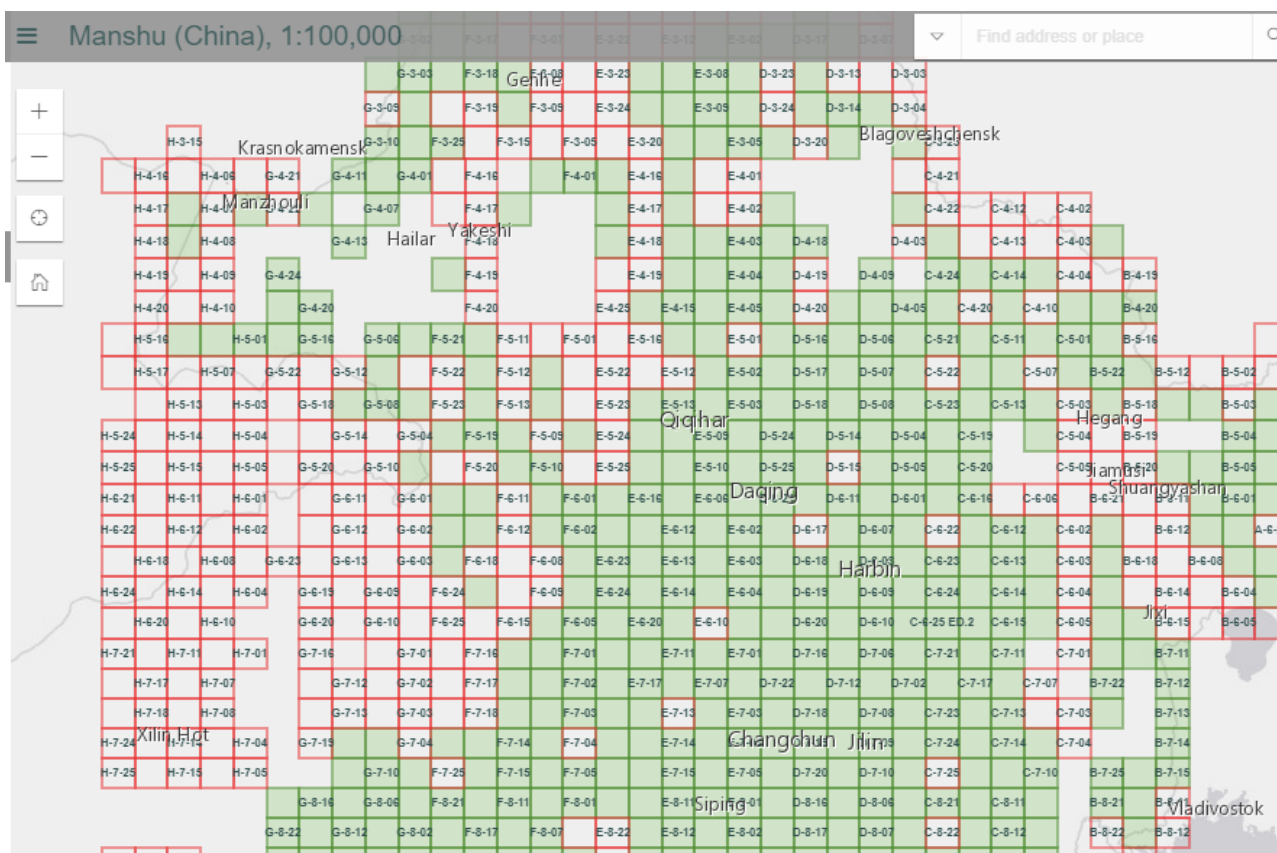


図2 (スタンフォード大学 SearchWorks: 満州十万分一図インデックスマップ)

課題

まず、OCLC Connexion 内で主タイトルを検索ワードにして書誌レコードを探す場合、各々の機関の図幅所有事情が違うので、例えば、ある機関がある地域のある一地名の図幅のみを所有している場合、その一地名を主タイトルにして書誌レコードを作成する可能性が大きくなる。しかし、別の機関がシリーズで書誌を作成した場合、同じ地名の情報を含む別のレコードが存在することになる。また、例えば図幅の地域名が「尼伯都訥3号」と「西五行北七段尼伯都訥3号」では別の著作としてそれぞれの書誌レコードが作成される可能性も

ある。次に、主タイトルが一致しても、出版年が違っているケースが外邦図には多く見られる。出版情報（出版地、出版社、出版年）が違うものは基本的に新たにレコードを作成することになっているのでさらにレコード数が増えてくる。このように、現在ある書誌レコードの中からワシントン大学が所有する図幅と一致するレコードを探し出す作業は非常に煩雑である。また、書誌情報として出版年の他に、測量機関、測量年、製版年、色数、測量方法（航空図かどうか）、経緯度等、今後 MARC から他のメタデータスキーマに変換する際に有用な情報を盛り込むことも重要である。し

たがって、同じ図幅名でも、機関によってはそれらの情報が異なることもありうる。それらの情報をひとつひとつ精査しなくてはならないので、単純な書誌レコードのコピーで済む割合の方が少ないであろう。

また、505 フィールドのローマ字欄に記入する地名の読み方を、現代語読みにするか、当時の読み方にするか、という問題もあるが現在は漢字のみを記入している。

まとめ

外邦図はアメリカ合衆国国内の多くの機関で所蔵されている。その中には日本国内の機関には所蔵がないものも多くある。しかし、残念ながらそのようなコレクションの整理は発展途上である。また、スタンフォード大学のように外邦図をデジタル化し公開、情報を発信している機関もあるが、利用者は各コレクションに個々にアクセスをしなくてはならない。したがって、書誌レコードを WorldCat に登録し、そこから各機関の OPAC へリンクさせることで情報の一元化、可視化を進めることは意義のあることだと考える。そのためにワシントン大学でも書誌レコードの作成を進めていき、他の外邦図所蔵館に利用してもらうこと、また外邦図書誌レコードフォーマットのようなものを作成して新たに書誌レコードを作成する場合の作業の簡易化ができれば他の機関でのカタログ作業がはかどるのではないかと考える。さらに言えば、将来的には各機関のそれぞれの外邦図のデジタルコレクションなどをひとつに集められるようなハブ的なプラットフォームがあれば網羅的に検索が可能になり、利用者にとってより使いやすく、

また研究対象としての外邦図の利用機会も高まることが期待できる。

最後に、ワシントン大学のインベントリーシート
の完成のため、また実物を確認しなくては質の高い書誌レコードを作成できないため、一日も早い新型コロナウイルスの収束と図書館の開館が待たれる。

謝辞

外邦図カタログプロジェクトを進めるにあたり、スタンフォード大学ブランナーアースサイエンスライブラリーにて外邦図プロジェクトを担当されている中寄静様と、アメリカ議会図書館地理学および地図課にて外邦図のカタログを担当されているミーンズ節子様には、地図のカタログングルールの初歩的な質問から細かな内容についてまでご教示いただき、また所蔵図幅についての問い合わせにも丁寧に対応していただき、大いに参考にさせていただいた。この紙面をお借りして心よりお礼を申し上げたい。

注

1. *Gaihozu: Other Institutions Holding Gaihozu*. (n.d.). University Libraries Research Guides. Retrieved January 12, 2021, from https://guides.lib.uw.edu/research/gaihozu/other_institutions
2. *WorldCat*. (n.d.). Retrieved January 13, 2021, from <https://www.worldcat.org/>
3. *OCLC Connexion*. (n.d.). Connexion Features. Retrieved January 13, 2021, from <https://www.oclc.org/en/connexion/features.html>
4. *SearchWorks catalog*. (n.d.). Manshū Jūmanbunnoichi Zu. Retrieved January 19, 2021, from <https://stanford.maps.arcgis.com/apps/SimpleViewer/index.html?appid=19d9770258514b1089238c20e3a30d87>

5. 満州10万分の1. (n.d.). 国立国会図書館リサーチナビ. Retrieved January 18, 2021, from <https://rnavi.ndl.go.jp/chizu/tmp/g041.pdf>
6. インデックスマップ. (n.d.). 外報図デジタルアーカイブ. Retrieved January 18, 2021, from <http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/index.php?lang=ja-JP>

参考文献

- カラージェラス, ミーゲン. (2014). ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館における外邦図、内邦図の新たな発見と確認. *外邦図研究ニューズレター*, 11, 7-13.
- 小林茂; Kobayashi, S. (2009). 近代日本の地図作製とアジア太平洋地域: 「外邦図」へのアプローチ; *Kindai Nihon no chizu sakusei to Ajia Taiheiy chiiki: "gaiho zu" e no apur chi* (初版.; Shohan ed.).

- 吹田市; Suita-shi: 大阪大学出版会; saka Daigaku Shuppankai.
- 村山良., 宮澤仁. & 渡辺信. (2005). 外邦図目録の作成からデジタルアーカイブ構築まで. *地図情報*, 25(3), 12-15.
- Kiser, T., & Smeltekop, N. (n.d.). A Method for Creating Scanned Map Metadata for Geoportals, Library Catalogs, and Digital Repositories: Reworking Existing MARC Records of Paper Maps to Create New Records for their Scanned Counterparts. *Journal of Map & Geography Libraries*, 14(2-3), 109-131. 10.1080/15420353.2019.1640166
- Reese, T. (2006). Bibliographic Freedom and the Future Direction of Map Cataloging. *Journal of Map and Geography Libraries*, 2(1), 67-97.